

## ◎「伴奏講座池田コース」に参加して」(K・T)

私は歌声の伴奏をしてみたいと思いアコを始めました。実際にやってみると歌う人が楽しくなる伴奏は難しく、高い演奏力、音楽力が必要ということが分かりました。練習していたら身につくというものでもなく、無いよりましと思って弾いていました。

今まで伴奏講座の誘いを受けても断っていましたが、今回はなぜか興味がわいてきました。ところが近づくにつれ不安になり、記録的な大雪報道に中止の連絡を期待したりしました。

教室では沢山の楽譜を用意して頂き、質問を連発し、わかりやすく解説してもらったり、一つの曲にいろいろなアレンジをして、感じ方、また、違いを教えてもらったりしました。仕上げでは、メロディにコードを付け、アレンジした楽譜を作ること。必死になって無い知恵を絞りだしたのですが、演奏は練習が足りずヒサン。

でも、私がアレンジの勉強をしたという経験は楽しく、充実したと思っています。アレンジの理屈が分かれば伴奏できるとは言えませんが、練習の方法を教えていただいたので、これからは又違った楽しみ方が出来るのではと期待しています。伴奏講座は、アコ好きの方はきっと楽しいひと時になると思います。

発表の様子(二日目)⇒



## ◎「星槎高校高尾キャンパスにて」(K・K)

私は青山講師のコース(初級)でした。何回参加しても、歌伴奏するときは右手でメロディー、左手でブンチャチャとリズムを付けて間に合わせてしまい、講座で習ったことは活用できませんでしたが、今回はちょっと一味違いました。

**まず、伴奏の基本:**①その歌を歌ってみて、その歌の良さを感じ取る。②前奏が大事。前奏でどんな歌かを示す(テンポ、リズム、曲想)。③前奏⇒1番、1番の終わり⇒2番のところで、歌い手に上手に息を吸わせてあげる。④歌い手の歌を聴きながら、歌を支え、盛り上げるように弾く。要するに歌う人が気持ちよく歌えたかどうか大切なのです。

**和音についての学習:**CメジャーとDマイナーの和音を使って、音階、主要三和音、主要三和音の展開形、転調するときの和音の取り方など、わかりやすいお話でした。

**実践:**グループに分かれ、メロディー、和音の伴奏、分散和音の伴奏、ベースとコードでリズムを刻む伴奏、の4パーのある楽譜(「早春賦」または「四季の歌」を選んで)を使って交代でいろいろなパートを弾き、アンサンブルの形で発表しました。

青山講師のいかにも楽しそうに伴奏しているようなジェスチャーが印象深く心に残っています。伴奏とか和音の意味がよく理解できたと好評でした。

夜は恒例の「歌声飲み会」や自己紹介で楽しく過ごしました。二日目は朝から好天気。久しぶりに雪国へ来たようで、わくわくしながら朝のミニ散歩15分。思わず即席の雪だるまを作りました。(写真)

帰りは、駅までのバス、タクシーがなく、また一苦労でしたが、すがすがしい気持ちで帰ることができました。



## スナップ集

交流会の様子(1日目夕食後のひと時)



発表会の様子(講座の最後)



終了まで残っていた方たちで記念写真



雪だるまと製作者

◇第26回関東アコーディオン演奏交流会「第1回実行委員会」のお知らせ◇

日 時 2014年3月30日(日)18:00～ エデュカス東京(市ヶ谷駅より徒歩約10分)

議 題 開催日について/予算案について/年間スケジュールについて、他